

現場・市民 目線で市政チェック。 「いいね！」あふれる大和に。

討議資料

発行元：小田博士後援会

平成29年春 vol.009

後援会にご加入ください

おだひろし 大和市議会議員 元産経新聞記者

小田博士の 市政かわら版

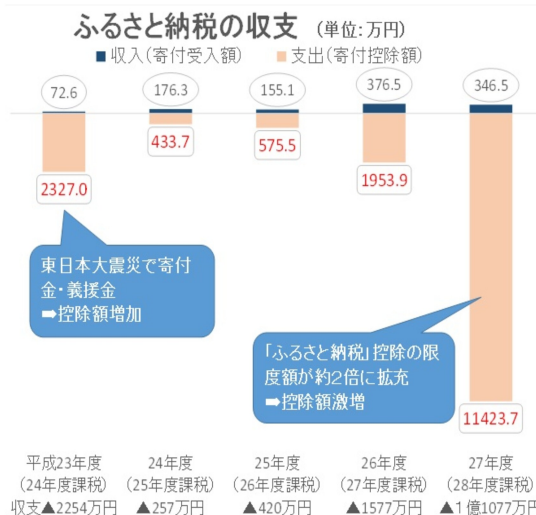


3月議会 ふるさと納税の本格参入を提言 市側「シティセールスとして幅広く検討」

平成20年度に全国でスタートしたふるさと納税制度が岐路に立っています。返礼品競争が過熱している上に、都市部の自治体は税収減に悩まされています。右のグラフは、ふるさと納税の本市の収支について、議員として調査を請求して得たデータに基づき作成したものです。

本市の赤字(税収減)は平成26年度(27年度課税)は1577万円でしたが、制度が拡充された27年度には前年の7倍となる1億1077万円にまで膨らんでいます。

私は3月14日、大和市議会の



本会議で一般質問を行いました。その際の政策部長の答弁によると、28年度の赤字幅は「1億3800万円」と見込まれています。私は、本市もふるさと納税に本格参入し、シティセールスや地場産業の活性化を行うよう求めました。

これに対し、政策部長は「ふるさと納税をシティセールスの手段として捉え、自治体の知名度向上につなげることも考えられることから、健康都市のアピールも含め、幅広く検討する必要があります」と答弁しました。

その他の質疑(要旨)

【予算編成の方針】(市長、総務部長答弁)

Q. 今後の財政運営はどうか？

A. 将来の不測の事態に対応し、計画的な財政運営を行うための貯金ともいえる財政調整基金を毎年、決算剰余金から確実に積み立て、残高を一定規模確保し、健全な財政運営の維持に努める。

Q. 市債残高の今後の推移は？

A. 本市全会計の残高は平成29年度末に約908億円まで増加する。しかし、適正な発行に努め、35年度末には約821億円と見込み、文化複合施設整備前の水準まで減少すると推計している。

【法人税収を上げるための産業政策】(市長、市民経済部長答弁)

Q. 企業誘致促進条例の制定時期や進捗は？

A. 平成30年度には起業家支援スペースの開

設を控えている。それに合わせる形での制定を目指す。

Q. 企業誘致の専門職員を配置してはどうか？

A. 本市の産業政策で企業誘致のウエイトは明確になっていない。今後の検討課題としたい。

【農業政策】(環境農政部長答弁)

Q. 農地を借りて子供の遊び場として整備できないか？

A. (今定例会に)提案している「子どもの外遊びの基本条例」の趣旨にも合致する。今後も整備を進めたい。

【公共事業】(総務部長答弁)

Q. インセンティブ発注を増やせないか？

A. 平成27年度は2件、28年度は3件、実施している。競争性の確保に注意しつつ、対象案件の拡大も視野に入れながら実施していく。

【街づくり】(市長答弁)

Q. 中央林間地区街づくりビジョンをどう進めるか？

A. (小田急線駅の北東側に)改札口に直結した駅前広場や、駅施設と一体となった保育施設の整備などを合わせて行い、魅力的な駅空間を創出していく。東急側の駅前広場は、現在のロータリーにある交通機能を分散して再配置し、歩行者中心の広場を整備したい。

【教育問題】(教育長答弁)

Q. 北部地区の小中学校の規模適正化は？

A. 昨年3月に作成した基本方針に基づき、北大和小学校区からは中央林間小へ、大和小学校区から大和東小や大野原小への通学を認めるなど通学区域を弾力的に運用し、学校規模の是正をはかっている。過大規模校の北大和は、増築に向けた予算を盛り込むなど環境改善を進めている。今後も規模適正化をはかる。

議決前に新規事業スタート…予算審議ないがしろ？

行政と議会は車の両輪 二元代表制確立を



大和市議会では過去6年間、会派を代表して質問する「代表質問」が行われていません。この復活を提案している自民党・新政クラブでは3月議会において、各議員が行う一般質問の枠の中で、代表質問を模した「代表的質問」を試行することとし、私が大役を担うことになりました。

自民党の議員に挙げてもらった質問項目を中心に「予算編成の方針」「法人税収を上げるための産業政策」「農業政策」「公共事業」など7項目の25問を質問。80分を超える充実した質疑を行うことができました。

さて、今定例会の中心議題である平成29年度当初予算には、健康づくりを進めるべく1カ月間の歩数を競い合う新規イベント「やまとウォーキンピック」の関連費用が盛り込まれました。3月15日発行の市の広報紙には、申し込みを始めるお知らせが大々的に掲載されましたが、疑問を禁じ得ません。

今定例会で、予算などを可決したのは3月22日の本会議です。その1週間前に申し込みを受け付けるということは、議会の議決前に事業を始めたのと同じです。

議会において、議決は最も重い権限です。その中で当初予算は最重要案件です。議会は予算そのものを提案できませんが、修正したり否決することはできます。大きな問題があると判断すれば、この事業を削った修正予算を成立させる可能性もあるのです。

市の今回の対応は、そもそも議会審議は眼中にないと宣言しているようなものです。市民の代表である議会をないがしろにすることは「市民軽視」につながります。議会制民主主義や二元代表制の根幹を揺るがす由々しき事態です。

私は委員会等で厳しく指摘することども、予算には賛成しましたが、市は二度と繰り返さないでほしいですし、こちらにも軽視されない議員、議会を目指します。

自民党県連 市町村議員協の幹事になりました

自民党神奈川県連には、政令指定都市（横浜市、川崎市、相模原市）を除く市町村議員を対象にした市町村議員協議会があります。私はこのほど、その幹事に就きました。

市町村議員協議会は、会長以下約200人の議員で構成されます。幹事になると、各種政策勉強会の開催を企画した



東京五輪に向けて開かれた自民党県連市町村議員協議会の研修会＝1月23日、横浜市の日産スタジアム

り、県内他地域の選挙を支援したりすることになります。

これに先立って、私は昨年11月には自民党神奈川県連第13選挙区支部青年局の幹事にもなりました。

自民党公認の市議会議員として、甘利明代議士、藤代優也県議会議員との「タテの連携」だけでなく、地域の垣根を超えた「ヨコの連携」も強化していきます。

◆プロフィール

昭和50年1月5日生まれ
大和市出身／上和田在住

昭和56年 高座みどり幼稚園卒園
62年 西鶴間小学校卒業
平成2年 南林間中学校卒業
5年 中央大学附属高校卒業
10年 上智大学経済学部卒業
26年 産経新聞社を自ら退社
27年 大和市議に初当選

◆市議会等での役職（平成28年5月～29年4月）

厚生常任委員、議会改革実行委員、広報委員会副委員長（旧・議会報編集委）、社会福祉審議会委員

◆その他の活動

自民党大和市連合支部政調副会長、広報局長、大和中央シニアライオンズクラブ、大和市倫理法人会、関東若手市議会議員の会（神奈川県代表）、隊友会、金毘羅神社神輿会など

◆産経新聞記者（16年間）当時の職歴

東京本社・整理部→千葉総局→社会部→政治部

市政報告会

4月9日（日）午後3時から、コミュニティセンター桜丘会館（大和市上和田860-1）で市政報告会を行います。無料です。是非、ご参加ください。

小田博士後援会 〒242-0014 大和市上和田1792-2-301
(TEL) 046-206-5567 (FAX) 046-206-4288 (MAIL) hoda@nifty.com

↓ブログも随時、更新中↓
小田博士 検索